

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272101015		
法人名	有限会社サニーライフ		
事業所名	グループホームサニーライフ		
所在地	〒038-2501 青森県西津軽郡深浦町大字柳田字桜田34番地5		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和5年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節にあわせた掲示や行事など、穏やかに四季を感じていただき生活できるように工夫しています。コロナ禍でもご家族との絆を大切に考え、感染状況に応じその時できる方法での面会支援や事業所たよりと手紙を添えて近況報告をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は海沿いに立地し、自然豊かな環境下にある。運営推進会議や防災訓練などを通し、町役場や地域包括支援センターとも良好な関係を構築している。地域住民が気軽に事業所に立ち寄り、野菜・果物・魚などのおすそ分けするなど、地域との日常的な交流も盛んに行われている。3食の献立作成・買い出し・調理のすべてを職員が行っており、食事を楽しむことのできる支援に対する意識はとて高くある。職員の気づきやアイデアを取り入れる工夫として、管理者が自ら介護現場に入る体制を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を全職員で理解しご利用者様と共に感じたり行動したりしながら寄り添ったケアを提供していけるよう心掛けている。	理念は職員の目につきやすい事務所に掲示することで、意識づけに繋げている。地域密着型サービスの意義や役割を考え、理念がケアに反映されているかを職員間で確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の防災訓練に参加したり、ご近所から野菜や果物、魚をいただくことが多い。コロナ禍ですがボランティアの受入れ等、またできる事を進めていきたいと思う。	日頃より近隣住民から野菜・果物・魚などのおすそ分けがあり、日常的に触れ合う機会が多くある。コロナも緩和され「町主催の防災訓練」に参加するなど、地域交流に対する意識は高くある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ感染症の影響で地域との交流が行えていない。運営推進会議の時は民生委員、ご利用者家族に参加して頂き情報提供をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況、活動報告、ヒヤリハットなどの報告を行い施設運営の意見や助言を頂き会議などで共有して向上に努めている。	コロナ5類移行後より、対面による運営推進会議を再開している。利用者家族、地域包括支援センター職員などを事業所へ招き、サービスの実際について情報共有しながら意見や助言を貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて電話や直接窓口で報告・相談を行っている(コロナの予防接種に関することや空き室情報、加算関連等)	町役場の担当課と顔の見える関係を構築している。「感染症対策に関すること」「加算取得に関すること」など、疑問点があればその都度電話・窓口相談を行い、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回研修会を行い職員間で話し合いながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関にはセンサーを設置し夜間のみ施錠している。	これまでに身体拘束に至ったことはない。2ヶ月に1回のペースで事業所内研修を実施し、認識の確認・知識のアップデートを図っている。管理者が介護現場に入り、一緒にケアすることで実情を把握し、身体拘束をしない環境・風土作りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を行い、虐待のないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用されている方はいないが内部研修を行い、知識を持つことに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所・退所時、改定等の際には文章と口頭で説明を行い、理解納得を得て署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日々の会話の中で、ご家族からは面会時に必ず声掛けを行い意見や要望、困りごとはないか聞くように努めている。遠方のご家族には電話で対応している。	家族に対し利用者一人ひとりの生活状況を記載した手紙を毎月送付することで、信頼関係の構築に繋げている。コロナも緩和され、面会時や電話連絡の際に意見や要望を確認し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議にて利用者様の状況や日々の業務遂行について話し合いを行っている。その他、雑談の中等で機会を設けてコミュニケーションが図れる環境に努めている。	管理者が介護現場に入っているため、日頃から職員の意見や提案を聞き出しやすい環境である。管理者が吸い上げた意見を総括責任者・代表に伝え、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に現場の状況を確認したり、職員の意見の聞き取りを行い職場の環境条件の整備を行っている。個々の努力や職務態度等の把握にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全スタッフが同様のサービスを提供できるよう、統一を図れるよう心掛けている。力量には個人差はあるが困っている事、分からない事は話し合い実践に活かしている。また、得意分野で力を発揮できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの影響で交流機会はなかったが今年5月の5類移行後は外部研修に参加し、皆さんと勉強する機会が少しずつできてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人、ご家族様と実態調査を行い、希望・要望・思いを受け入れ職員間での情報と共有を図りながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時からご家族様が困っていることや不安・要望などに耳を傾け利用者様が安心・安全に生活できるよう一緒に話し合っている。また施設でできる事、できない事等ご家族様にお話し理解を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がその時一番必要としていることを見極め、ご本人とご家族の意向に沿うようなサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所手伝いや掃除など声掛けで一緒に行ったり、日常生活の中で利用者様と寄り添い、馴染みの関係を築くことができるよう、また信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にはご利用者様の生活状況や心身の状態をお便りや電話などで伝え、必要があればご家族様の協力や支援を求める等、共にご本人を支えて行く関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないように知人・親戚の面会(ガラス越し)や、電話もできるよう支援している。思い出巡りを行事に取り入れ自宅まで行き、写真を撮って居室に飾っている。	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が維持できるよう努めている。ガラス越しで面会できるよう対応するなど、コロナ禍でも関係者との接点を持ち続けよう意識している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の性格や生活パターン、利用者様 同士の人間関係を把握し職員がコミュニケーションの橋渡しとなるよう努めている。食事、レクリエーション時の座席の配置などにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族からの相談を受けており、他の関係機関との連携を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の様子や言動から把握できるよう努めている。また、様々なことを柔軟に捉え臨機応変に対応できるよう心掛けている。	言語による意思疎通が困難な利用者であっても、表情・仕草から思いを把握できるよう努めている。「業務日誌」を活用することで、職員間で利用者の小さな変化を共有し、実際のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、ご本人やご家族、担当ケアマネージャーに情報提供をして頂き把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のかかわりの中で記録し、申し送り等で把握している。一人ひとりにあった個別ケアや対応を職員で話し合い情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行いご本人、ご家族様の意向をお聞きしている。その他にも課題や検討が必要な時にはカンファレンスを行い現状に即した支援ができるよう取り組んでいる。	介護計画の見直し・モニタリングは6カ月～1年のペースで実施している。通院時に聞いた医師・看護師・薬剤師からの意見・助言を介護計画にさせるなど、多職種協働・連携に対する意識が高くある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子や言動、排泄、食事、水分量、職員の気づき等を記録し職員間で情報の共有を図っている。また介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望やケアからの気づきにより実現可能なことは積極的に取り組むことを積み重ね、サービス構築と満足度の向上に繋がるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	交流は制限しているが現状の可能な限り地域資源を活用できるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院時には利用者様の身体の変化を主治医に報告し適切な医療を受けれるようにしている。ご家族に通院後の報告を電話、メールで行っている。	地域の医療機関は限られているため、利用者のかかりつけ医は協力医療機関である場合が多いため、受診支援はすべて計画作成担当者が行い、医療機関とのスムーズな連携・情報共有に繋げている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調など状態変化が見られた場合は早期に医療機関へ連絡をして報告や相談をし指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこれまでの生活状況や体調変化等を報告している。入院中も病院、ご家族と連携を取り合い、状況の確認と退院に向けての施設生活での相談対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の説明は入居時にご家族へ説明している。状態変化に伴い、医師・家族様・施設とで話し合いを持ちより良い対応ができるよう取り組んでいる。	重度化した場合や終末期の支援について、入居の際から本人・家族と話し合っている。医療機関や医師が不足する地域の実情を踏まえ、どこまで支援ができるのか、その都度見極めを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時発生の際の伝達方法や対応方法を内部研修で確認しあうようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、町の防災訓練に参加している。その他に様々なリスクを想定してご利用者様と一緒に訓練を行い、避難方法を身につけられるよう努めている。地域の協力体制は運営推進会議の際に呼び掛けている。	「火災」「地震」「風水害」と災害の種類ごとにマニュアルが整備され、防災に対する意識は高くある。事業所内の訓練のみならず、「町主催の防災訓練」に参加するなど、地域との協力体制も構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としてご利用者様を敬いその方に合わせた言葉かけや関りに意識するようになっている。	尊厳やプライバシーを損ねるような不適切な言動・対応となっていないか、日常的に確認し合っている。管理者が介護現場に入る機会も多く、事業所全体で尊厳を重視する姿勢が見てとれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で言動や動作から思いや希望をくみ取り、自己決定ができるように見守りと声掛けを働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は都合や業務優先にならないように努め、利用者一人ひとりのペース、希望に沿った支援を行えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合ったものや、その方の好みに合わせたその人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。訪問理容を希望される方は、散髪・顔そりを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が手作りの料理を作り、盛り付けなど彩りよく工夫をしている。誕生日には利用者様の好みに合わせて食事を準備したり、四季折々の行事食も提供している。	3食の献立作成・買い出し・調理は、すべて職員が行っている。利用者と一緒に準備・後片づけし、おすそ分けで貰った食材を活かす場面もある。業務負担や食材費・光熱費の高騰が問題視される中でも、利用者が食事を楽しめるよう支援を継続している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個別に記録し、把握管理している。個々に合わせて食事形態を変え、主食量も調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行い、一人ひとりに合わせた声掛けや見守り、介助等を行っている。夕食後は入れ歯を預かり洗浄消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、その方に合ったトイレ誘導ができるように支援している。	現在おむつを使用する利用者はいないが、「排泄チェック表」に記録し、職員間で排泄パターンを共有している。排泄の失敗を減らし、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操で体を動かしたりおやつに乳製品を提供している。場合によっては主治医より処方された服薬により便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴剤を使い楽しく入浴できるよう工夫している。また、入浴時間は職員と個別の関りが持てる時間として利用者様の話をじっくり聴いている。	週2回の入浴を基本としながらも、個々の状況に合わせてシャワー浴・足浴などで清潔保持に努めている。個々に合わせた温度調整や入浴剤の活用により、入浴を楽しむことができる支援に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や状況に合わせて日中の活動を促して安定した生活リズムを作り、安心した休息や安眠に繋がるよう努めている。眠れない時は話を聞いたり飲み物を提供することで心の安定を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬の内容を理解し、指示通り服薬できるようにしている。薬の変更があったり飲み合わせの悪いものなどは申し送りを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や掃除など利用者様がそれぞれの役割を持ち張り合いのある生活を過ごしている。レクや季節の行事など楽しみも多く行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で思うように外出はできていないがその中でも楽しんで頂けるようお花見やドライブ、思い出巡りなどできる範囲で取り組んでいる。天気の良い日には散歩に出かけ、気分転換を図っている。	本人の希望に合わせた思い出巡り・ドライブなどを行っている。天気の良い日には近所を散歩するなど、気分転換の機会を設けている。利用者が事業所内の中だけで過ごさぬよう、工夫して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度のお金は施設側で預り管理している。新型コロナ感染レベルの状況を見ながらまた買い物を楽しめるよう支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	持参の携帯電話や施設の電話を通じいつでも話せるようにしている。年賀状を作成し毎年送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファを置きテレビやDVDを観たり利用者同士がくつろぎながら交流できるようにしている。季節の花や行事に合わせた飾りを配置したり、写真も張り思い出を楽しめるようにしている。	床暖・エアコン・扇風機などを活用し、温度・湿度調整を行っている。居心地の良い共用空間となるよう、ホール内には季節が感じられる花・装飾が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性にも配慮し、いつも一人一人が快適に過ごせるように席替え、テーブルの配置に気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具・寝具・テレビ等をお持ちいただいている。居室にはご本人やご家族の写真を飾られたり好きな物を置くことで安心できるような居室環境作りに努めている。	使い慣れた家具・寝具・テレビなどを居室に持ち込み、利用者がその人らしく、居心地よく過ごせるよう努めている。安全性や利便性についても、合わせて配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせた声かけや、ご本人が自立した生活が送れるよう支援している。認知症が進行していく利用者様に対して危険防止の工夫や出来る限りご本人の力を発揮できるよう支援している。		